

沖縄戦終結から 70 年

平和への祈りと基地への怒り

松本 朗

沖縄各地で慰霊祭

1945年3月26日にアメリカ軍が上陸し、6月23日まで一般住民を巻き込み多大な犠牲を出した沖縄戦。その終結(日本軍の組織的抵抗が終わった日)の日から今年で70年目を迎えた沖縄に行ってきました。

毎年、6月23日は沖縄戦で犠牲になった軍民20万人を追悼する「慰霊の日」として糸満市の摩文仁にある平和祈念公園で「沖縄全戦没者追悼式」が行われます。またそれ以外にも同じ糸満市の米須にある魂魄の塔やひめゆりの塔、その他多くの沖縄の人々が犠牲になった跡地や慰霊塔の前で追悼式典が行われました。また、座り込み行動が続けられている辺野古のキャンプシュワブゲート前でも、基地正門前に献花台をつくり、市民150人が参加して慰霊祭が行われました。

キャンプシュワブゲートは沖縄戦終了後「大浦崎収容所」として今帰仁村や伊江島などの住民4万人が収容されていました。栄養失調やマラリアで亡くなった人もいたが犠牲者数や遺骨の有無はいまだに不明だといえます。

翁長知事には拍手と声援、指笛

安倍首相には野次と怒号

平和記念公園の追悼式では安倍首相も参加するため、会場入り口前はこれに抗議する平和市民連絡会や辺野古のカヌー隊のメンバーが早朝から結集し、警官隊と激しくもみ合いました。安倍の車が会場に入ろうとすると抗議の声はさらに激しくなりました。

正午から式典が始まり、開始から30分後、翁長知事の名前が呼ばれるとひととき大きな拍手が鳴り響き、指笛を吹く人もいました。翁長知事は平和宣言であらためて辺野古基地建設中止求めました。次に安倍首相が発言すると空気は一変し、ヤジと怒号が飛び交いました。「戦争屋かえれ!」「何しに来たんだ!」「参加する資格はないぞ」などなど、激しいものでした。沖縄県遺族会も追悼の言葉で「戦争につながる基地建設には遺族として断固反対」と述べました。追悼式参加者の思い、沖縄県民の思いがはっきりとわかる追悼式でした。

沖縄の若者と共に

午後からは米須にある魂魄の塔(こんぱくのとう)まで移動し、第32回国際反戦沖縄集會に参加しました。集會では沖縄民謡をハワイのフラダンス風にアレンジした踊りやゴスペルソングを平和への思いをこめた歌にアレンジしてみなで歌いました。

発言では、沖縄の大学生、若者でつくる、チーム琉球のメンバー6人が登壇し、基地反対と平和への思いを述べました。また沖縄キリスト教大学で米軍基地は必要か、必要でないかを問うステッカーアンケートを行ったところ「基地は必要」が「基地はいらない」を上回った結果になってしまった事について「大変ショックだったが、考えてみれば今の若者にとって米軍基地は子どもの頃から存在し、一緒に育って生きてきたのです。大きな反対運動もあまり知らされずに生きてきた経緯があります。どれくらい基地が沖縄に集中しているか知らない人も多い。そのような中でこういう結果が出たのだろうと思います。」と述べ「沖縄の若者は基地の事、沖縄の歴史、基地反対運動の歴史をよく知りません。だからこれでだめなんだということではなく大人から若者に教えてあげてほしいのです。僕たちも沖縄の歴史や基地の事について学んでいきます。共にならばしよう」と述べました。



アンケートの説明をするチーム琉球の学生

激動の1年間を闘って

集會中盤では、病気療養中だった山城博治さんが登場し「入院治療中でしたが今日の日だけはどうしても参加したいと思い、お医者さんに無理いって今日だけ出させてもらいました」と強い思いでこの集會に参加した気持ちを述べ、「7月頃には必ず闘いの現場に復帰します。」と変わらぬ闘志を表明しました。

最後に閉会の挨拶とまとめを高里鈴与さんがおこない「1年前、今、吹いている風を感じます。去年6月23日

から今年の6月23日は激動の1年間でした。7月1日に集团的自衛権行使容認の閣議決定と辺野古への工事強行が同時に行われました。今日も辺野古では朝6時から抗議行動が行われています。島ぐるみ会議も20市町村からバスで出発し抗議行動をしています。また、辺野古の闘いは世界の多くの人に広がっています。1年の間に希望をもってここまで来たことに拍手しましょう」と述べ1年間の闘いの成果を参加者全員で確認しました。最後に「私たちはここから、また出発し、つながり、支えながら、希望をもって、それぞれの場に帰っていきましょう。」と締めくくり国際反戦集会は終了しました。



元気な？姿を見せる山城さん

学んで闘おう

今回、沖縄に行くと私は、沖縄の人々にとって「6・23」は「5・15 復帰の日」以上に重要な日なのではないだろうかと思いました。沖縄戦のとき日本軍が沖縄の人々に行った蛮行の数々を知れば知るほど怒りがこみ上げてきます。

6月23日は「慰霊の日」「追悼の日」「祈りの日」といわれていますが、私は本当は抑えがたい怒りの日なのではないのかと思いました。私も沖縄の若者たちと同じように、歴史を学び、基地や戦争について学び、沖縄の人々と共に全ての米軍基地撤去まで闘おうと決意しました。



辺野古の新基地建設反対

名古屋での取り組み

海上保安庁抗議行動

名古屋にある、第4管区海上保安庁への抗議行動を行っています。名古屋からも辺野古へ保安官が派遣されています。辺野古での醜い妨害行動を、「正当な行為」と言っています。

毎月第2水曜日に行っています。次回8月12日の予定です。ぜひ、抗議の声を届けましょう。



大成建設名古屋支店抗議行動

辺野古の工事を請け負っているのが大成建設です。この行動は、全国一斉行動として取り組まれているもので、名古屋支店への抗議・要請を継続しています。

しかし、ここ2回大成建設は私たちに対して面会拒否という不誠実な態度に終始しています。

終了後は、名古屋駅前で宣伝活動もしています。

次回予定は、7月21日を予定しています。

